



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第38回）

～ ご本人の意向を大切に ～

圧迫骨折にて“彩り”に入院され、翌週よりリハビリを開始しました。しばらくは痛みが維持していたため、体動が困難な状態でしたが、時間の経過と共に痛みが軽減し、リハビリの訓練場面や病棟での入院生活場面ではADLが徐々に拡大してきました。入院前の生活はほぼ自立しておられたことから、排泄動作自立と独歩をゴールに設定し、リハビリを継続しました。

MSWは毎日、患者さんの病室まで伺い、退院後の生活についてのご本人の意向はもちろんのこと、病棟での生活（痛みの有無、排泄など）の状況を確認し、退院に際し、何が課題となるのかを考えました。また、定期的にはリハビリを見学し、リハビリの進捗状況を把握しました。

患者さんは現在も“彩り”に入院中です。患者さんご本人の意向を大切にしながら、在宅復帰のお手伝いをさせて頂いています。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

退院支援チームの活動報告

～ 地域の皆様との連携を深めるために ～

院内の多職種が連携し、退院支援を円滑に行うことを目的として、「退院支援チーム」があります。構成メンバーは、病棟看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、退院支援室看護師、MSWです。このチームでは、入院後3日以内に対象患者（退院困難な患者）をスクリーニングし、1週間以内に院内カンファレンスを行ない、退院までの支援について話し合います。このような取り組みを通して、私たちは、早期に地域の関係機関と情報共有することが、スムーズな自宅退院につながるのではないかと考えに至りました。特に、独居や認知症の患者様に関しては、在宅時の生活状況に応じた看護やリハビリを行なう必要性を感じています。



この頃は、入院後すぐに訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所より情報提供いただけることが多く、大変助かっています。早期連携の手立てとして、サマリーによる情報提供は大変有効であることは言うまでもありませんが、入院初期～中期の間に、可能な範囲でご来院いただき、実際に本人のリハビリに立ち会っていただくなどして、情報共有を図ることが有効かと思われま

まだまだ、退院直前になってカンファレンス等にお声かけさせていただくことが多いのが現状ですが、これからは「少し前に」を意識して、「医療的ケアが加わりそう」「ADLの低下が見込まれる」などわかった時点で、早期に連絡を入れさせて頂きます。ご多忙の中とは存じますが、是非一緒にひとりでも多くの患者様が自宅に退院出来るようご協力お願いします。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 濱松 佳子）

「山城ケア病棟」と検索下さい。

地域包括ケア病棟広報誌「Design」のバックナンバーがご覧頂けます。もちろん、スマホでもご覧頂けますので、お気軽にアクセスして下さい。

山城ケア病棟

検索



地域包括ケア病棟

○ 地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟の広報誌です。

第1号 第2号 第3号 第4号 第5号 第6号 第7号 第8号 第9号 第10号
第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 号外① 第16号 第17号 第18号
第19号 号外② 第20号 第21号 第22号 第23号 第24号 第25号 第26号
第27号 第28号 第29号 第30号 号外③ 第31号 第32号 号外④ 第33号 号外
⑤ 第34号 号外⑥ 号外⑦ 第35号 号外⑧ 号外⑨ 号外⑩ 第36号 号
外⑪ 第37号 号外⑫ 号外⑬ 号外⑭ 号外⑮ 38号 号外⑯ 号外⑰ 号外⑱ 号外
⑲

↑ ホームページの画面です。

地域医療連携室より

～ 研修会に参加して ～

6月30日（土）、木津川市加茂文化センター（あじさいホール）で開催された「住民フォーラムW（ダブル）主治医を持ちませんか」と題した研修会に参加させて頂きました。木津川市や東部地域の住民の方や民生委員の方、この地域で活躍されている専門職の方の参加がありました。

冒頭、三沢あき子先生（京都府山城南保健所 所長）による開会の挨拶の後、第1部では、坪井知正先生（南京都病院 院長）による「呼吸器疾患におけるW（ダブル）主治医」と題した講演がありました。在宅医と病院勤務医が連携することで、患者さんのQOLが向上した事例を挙げ、わかりやすく教えて頂きました。また、山城南医療圏の医師数や将来の人口推移などにも触れて頂き、改めてこの地域に対する理解が深まりました。

第2部のパネルディスカッションでは、伊左治友子先生（伊左治医院 院長）が座長となり、吉村陽先生（吉村医院 院長）、岡田有史先生（岡田医院 院長）、村上憲先生（当院リウマチ科 部長）、坪井知正先生（南京都病院 院長）が登壇され、住民の方々の目線で、在宅医、病院それぞれを受診することのメリット、デメリットや、病院と診療所の連携についての話がありました。

第3部は、山口泰司先生（相楽医師会 会長）より、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）についての説明です。説明の後、住民の方からも質問があり、ACPに対する関心の高さが伺えました。

当院は、日頃から地域の診療所の先生方には大変お世話になり、連携を深めています。至らぬ点もありご迷惑をおかけしていることもあるかと思いますが、病診連携の窓口となる地域医療連携室では、地域の先生方のご要望には迅速に対応できるよう心がけています。当院へのご要望やご意見がありましたら、お気軽にご連絡下さい。（地域医療連携室 室長 南出 弦）